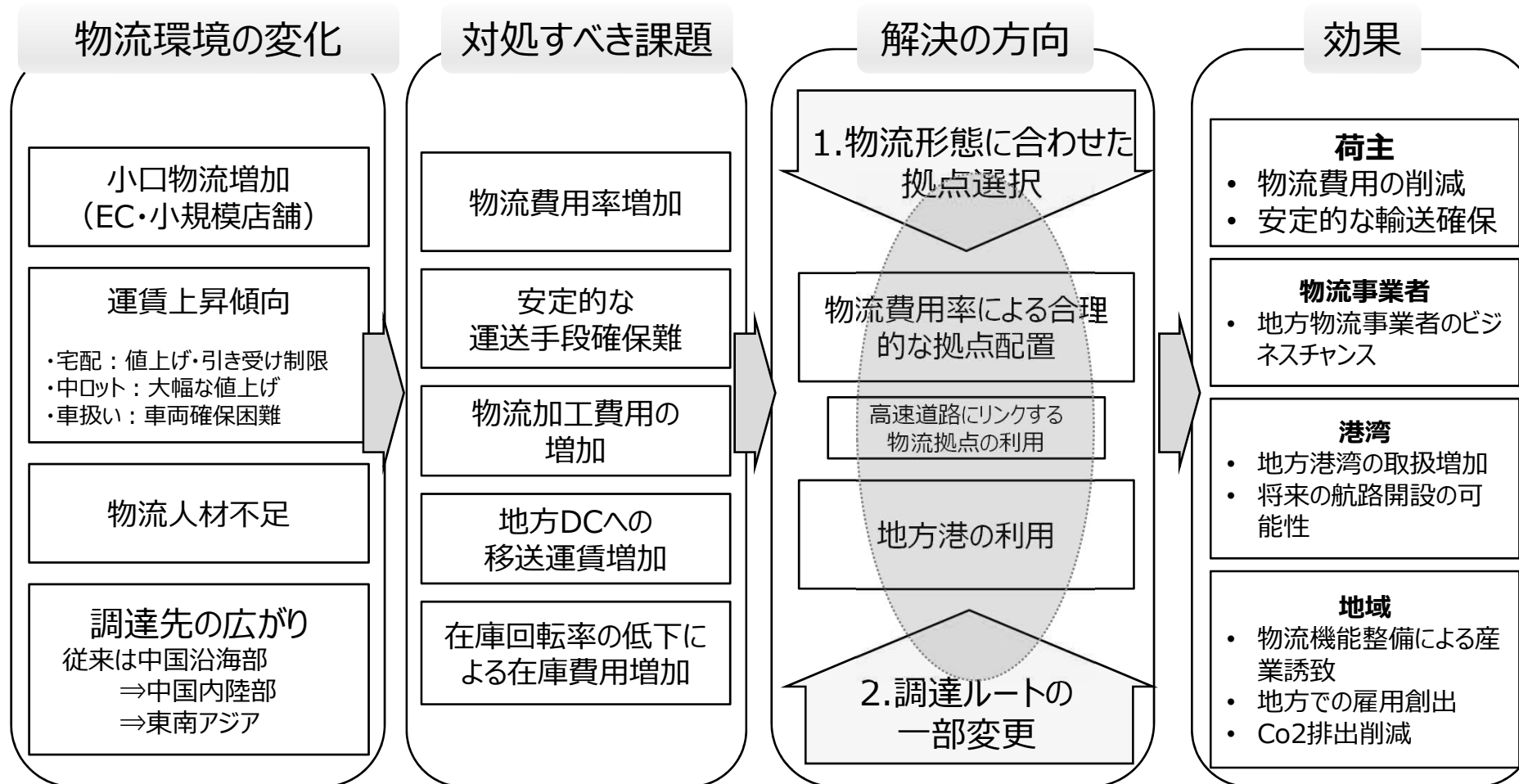

(話題提供)

～ 地方港を利用する国際物流と国内物流の取り込みの方向 ～

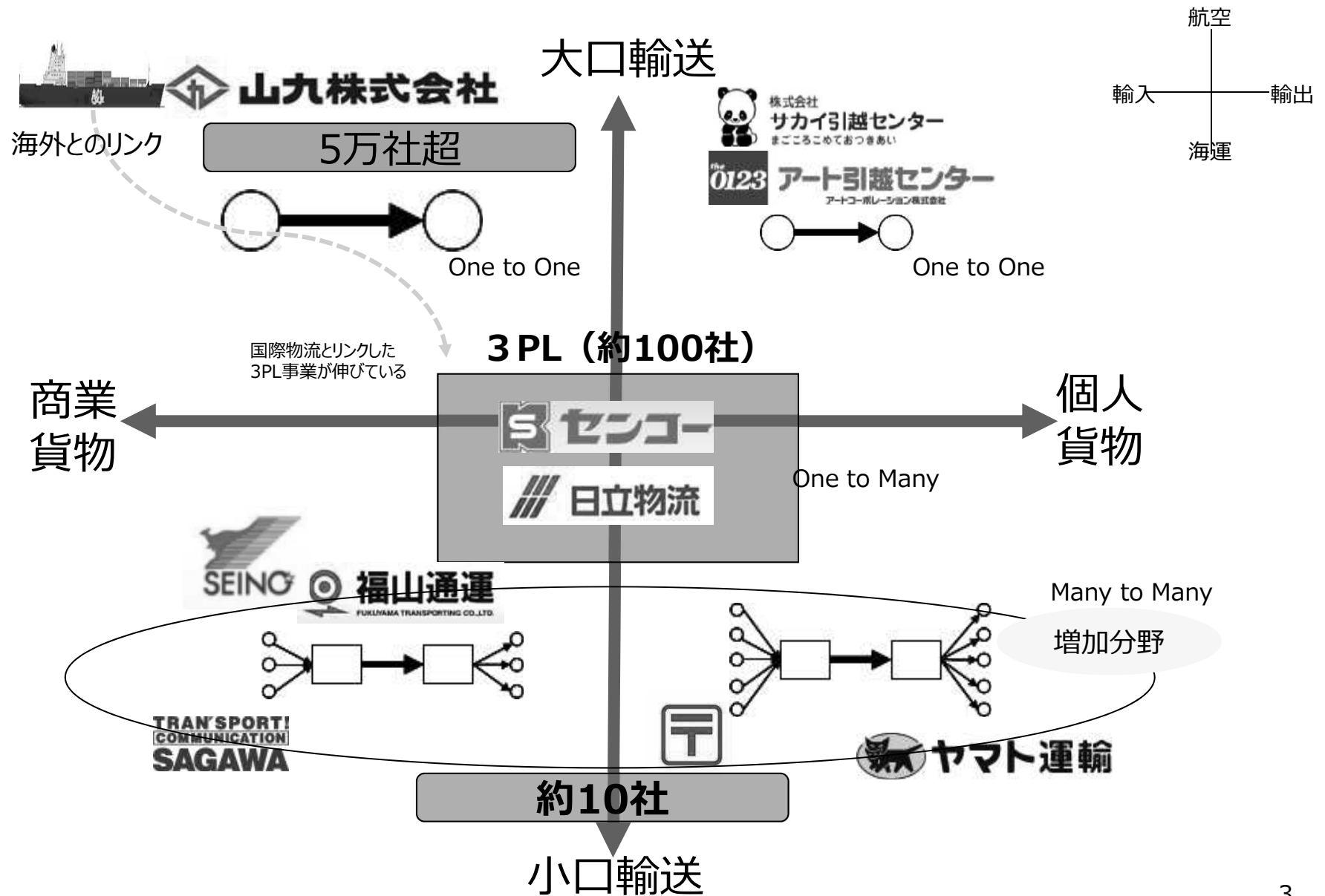
立地再評価
ビジネスモデル
海外とのリンク
高速道路とのリンク

2017年12月5日
J&Kロジスティクス株式会社

物流の課題と解決する方向 (検討のイメージ)



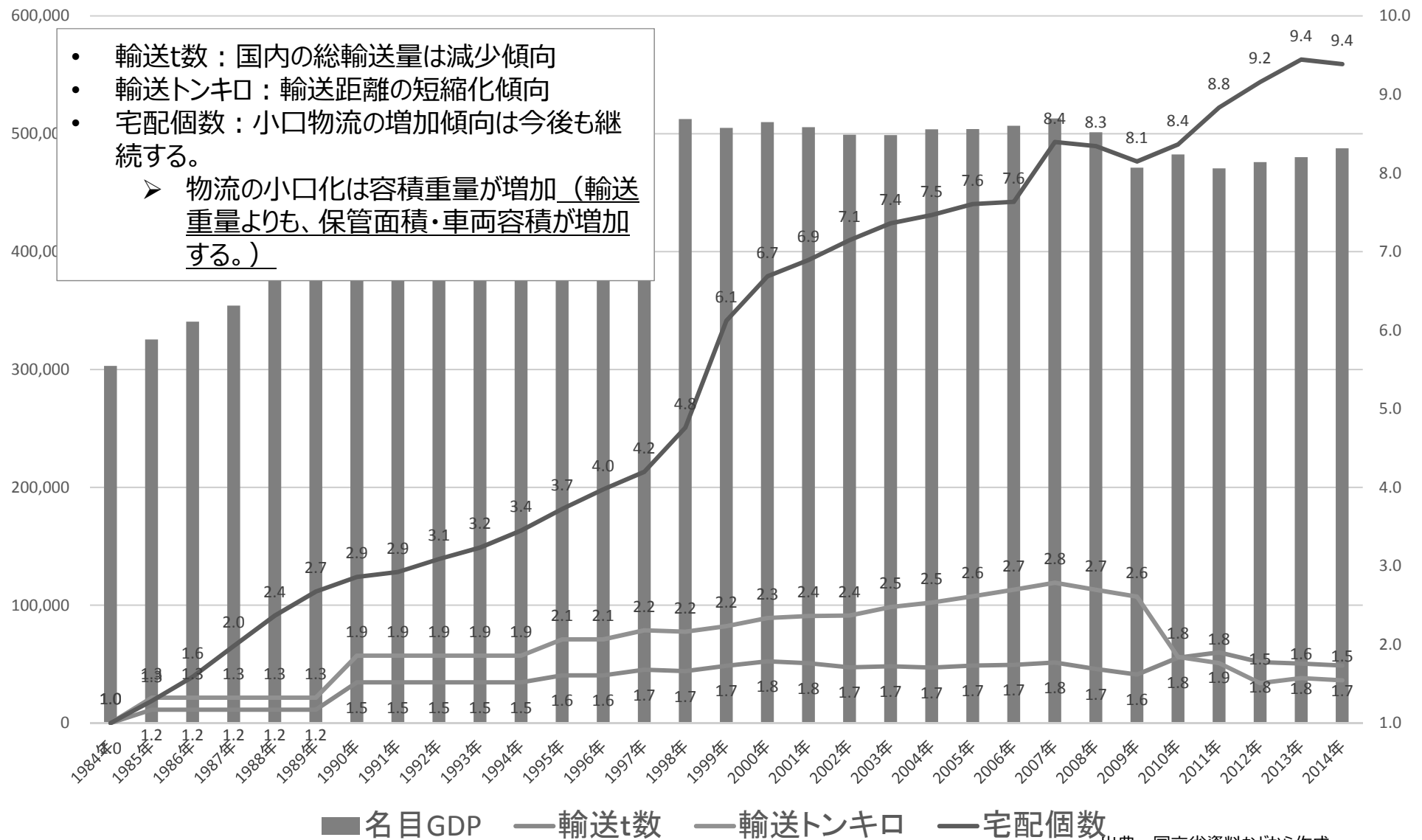
背景説明：物流事業者の棲み分け



背景説明：物流環境変化 (総輸送重量減少傾向、小口化、輸送距離短縮化)



資料：トピックス



- ・ 輸送t数：国内の総輸送量は減少傾向
 - ・ 輸送トンキロ：輸送距離の短縮化傾向
 - ・ 宅配個数：小口物流の増加傾向は今後も継続する。
- 物流の小口化は容積重量が増加（輸送重量よりも、保管面積・車両容積が増加する。）

出典：国交省資料などから作成

背景説明：EC増大

(国内EC貨物と越境EC貨物の増大：集約物流ビジネスチャンス)

- 地方港は越境ECの貨物集約拠点としての利用の可能性がある。

11/22日経新聞



図表 1-8：越境EC市場規模 (2016)

(単位: 億円)

国 (消費国)	日本からの 購入額	米国からの 購入額	中国からの 購入額	合計
日本 (対前年比)		2,170 7.5%	226 7.9%	2,396 7.5%
米国 (対前年比)	6,156 14.4%		4,259 16.5%	10,415 15.2%
中国 (対前年比)	10,366 30.3%	11,371 34.7%		21,737 32.6%
合計 (対前年比)	16,522 23.9%	13,542 29.5%	4,486 16.0%	34,549 24.9%

上記の数値に入らないSPAの物量も多くある。

(SPA: speciality store retailer of private label apparel : ユニクロ・良品計画・・・)

日中越境通販に本格参入

伊藤忠、サイトに出資
CITIC協業に活用

伊藤忠商事は日本製品を中国向けに電子通販(「EC」)サイトで販売する越境EC事業に本格参入する。サイトを運営するスタートアップ、インアゴラ(東京・豊)にKDDI、SBホールディングスの3社で合計約76億円出資。伊藤忠グループで取り扱う商品の供給や物流を担う。伊藤忠は資本提携している中国中信集団(CITIC)との協業を視野に、中国での消費者向け事業拡大の足がかりとする。

動画で魅力訴え販促

今回のインアゴラに出資した。伊藤忠は過去対する3社合計の出資額に出資した分約1億円。うち伊藤忠は約40億円を含めインアゴラの株主となる。

式の約2割を保有することになる。伊藤忠は中国入国者の事業(もう「えいひょう」社長に次ぐ)を拡充する計画だ(東京都大田区)。

インアゴラは出資を受け、国内外の物流拠点を拡充する計画だ(東京都大田区)。

インアゴラは社長が2014年に創業し、現在では300万人の利用者がいる越境ECサイト。中国最大のECサイト、淘宝网(タオバオ)と提携し、味の素やサマンサタバサ、トリップといった化粧品や化粧品、衣料品を中心に約4万品目を取り扱う。中国の越境EC市場は年々拡大している。20年には日本から中国への越境ECは2兆円と推定されている。中国EC最大手のアリババ集団のシェアは約4割と他を圧倒し、2位の京東集団やネット大手・網易ネットイースがそれぞれ1割程度のシェアを持つ。伊藤忠は15年に資本金を200億円に増資し、17年春に富裕層をターゲットとした越境ECサイトを立ち上げる計画だ。

地方港での新規物流基地
ニーズ

(海外⇒地方港) One to Many
(地方港⇒海外) Many to One

伊藤忠ロジスティクス
中国独身の日(2017年11月11日)
6,000人体制
(伊藤忠発表記事11/15)

背景説明：物流環境変化 (総輸送重量減少傾向、小口化、輸送距離短縮化)

